



特集

7.18

～紀州大水害発生から70周年～

昭和28年（1953年）7月18日、前日から降り始めた雨は未明に激しさを増し、有田川流域に大きな被害をもたらしました。通称「7・18水害」と呼ばれる大災害が私たちの町に起きたのです。

災害から70年。近年、災害の規模が変化している中で、本年6月には豪雨による被害が有田川町にも発生しています。過去の災害が、今を生きる私たちに示している教訓を学んでみませんか。

問 総務課（吉備庁舎）

災害を知る

● ご存じですか、7・18水害

7・18水害が大きな災害であったということを見聞きしていたとしても、具体的な規模までご存じの方は少ないのではないのでしょうか。ここで、実際の「被害件数」と時間経過に伴う「被害状況」を振り返ってみます。

● 有田川町内の被害

昭和28年（1953年）当時は有田川町の前身である吉備町・金屋町・清水町ではなく、12の村が存在しました。このエリア内では、次のページの表のとおり、水害で命を落とされた方は193名ですが、このうち、お名前の分かっている方は192名です。亡くなった方の人数には、行方不明となり、生還が望めないとして死亡確認が行われた方が多く含まれています。その人数は、148名で、約8割を占めています。この一点だけでも、いかに災害規模が大きく、悲惨な状況であったかを垣間見ることができます。